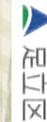


A-PARTNERS

足立区 NPO 情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.47
2024年9月15日発行

編集・発行 2024年9月15日 足立区 NPO 活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田7-3-1 (梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄: 足立区協働・協創推進課 協働・協創推進担当 TEL:03-3880-5020



特集

地域で実現した異分野コラボ
子ども食堂で手裏剣&ちゃんばら体験
おうち食育協会 + 東京剣舞会エッジ-志伝流-

トピック

- 聞きたいあなだけのストーリー オルタナティブスペース森のじかん
- センターピックアップ 足立区アレルギーの会hoop(フープ)
- 頼って!おいでよ!子育ておまかせ処 } みんなの家
子育てカフェeatoco
- コラム スタッフのつがやき

子どもの居場所 子育て支援 安心して暮らせる環境や仕組みづくり



頼って!おいでよ!子育ておまかせ処



みんなの家

主な活動場所: 足立区谷在家 3-16-5
お問い合わせ: minnanoie2023adachi@gmail.com

楽しみながらお悩み解決!

活動内容

新たな試みとして「集う」「遊ぶ」「学ぶ」「食べる」をテーマに、地域の方が立ち寄れる「みんなの家」を谷在家で始めました。施設には子育て中のママさんのためのカウンセリングスペース、おむつ交換台完備の授乳室もあります。

メッセージ

地域のお年寄りが家から出て、誰かのために役に立てる居場所。子育てで悩んだ時には、子どもを見てもらい悩みを聞いてもらえる居場所です。月、水、金は食事の提供あり。施設利用料18歳未満は無料です。



子育てカフェ eatoco

主な活動場所: 足立区関原 3-5-7
お問い合わせ: info@eatoco.com

お母さんのお休み処

活動内容

小さなお子さんと一緒にでも気兼ねなくご利用いただけるカフェです。2階和室は赤ちゃん連れの方に好評。お下がり交換も常時行っており、交換できる物をお持ちいただくと物々交換に参加できます。

メッセージ

「赤ちゃんと2人きりで、何も予定がない!」そんな日にふらりとお出かけください。キッズスペースや絵本、そしておいしいと評判のソフトクリームやスペシャルティコーヒーでお母さんのリフレッシュを応援しています。



「くわしく聞きたい!」
「自分も何か始めたい!」
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?
私にも何かできるのかな?
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
[足立区 NPO 活動支援センター](#)に
アクセスしましょう。



〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp

スタッフのつがやき

はじめまして!
4月から足立区NPO活動支援センターで皆さんのお手伝いをさせていただいております、原と申します。

足立の花火は中止となってしまい残念でしたが、足立区の良い所といえばイベントの多さ。私は子どもの頃よく家族とたくさんのイベントに訪れていましたが、大人になった今また別の角度から参加できること、とても嬉しく思います。

足立区育ちの私にとって、数あるイベントは私の胸を躍らせてくれるもの!些細な喜びかもしれませんが、これが足立区の活気を生み出していますよね。

皆さんも是非、足立区に溢れる魅力的なイベントにご参加ください。
(センタースタッフ・原)

*** 足立区 NPO 活動支援センター開館日・開館時間 ***

開館日: (火)~(日)
開館時間: 午前9時~午後9時30分 (月末の平日は午後5時まで)
休館日: (月)、(祝)、年末年始

特集 地域で実現した異分野コラボ

地域活動団体同士が協創することで参加者に新しい価値感を提供することができます。花畑地域学習センターで行われた「すまいる食堂」では、食事が終わったあとの時間を使って、参加した子どもたち向けの「手裏剣&ちゃんばら体験」を実施しました。

子ども食堂で 手裏剣&ちゃんばら体験

— おうち食育協会 + 東京剣舞会エッジ — 志伝流 —

子ども食堂と手裏剣&ちゃんばら体験のコラボレーション

おうち食育協会は「離乳食開始前の0歳から始められる食育」をテーマに、親子向けにさまざまな活動を行っています。お話会やフードパントリー、そして普段は捨ててしまう野菜の「はじっこ」を活用して食への関心を育むセミナーやワークショップを開催するなど、その活動は多岐に渡ります。

そんなおうち食育協会が地域の親子を対象に花畑地域学習センターで行った「すまいる食堂」では、食後の子どもたちに向けた「東京剣舞会エッジ」志伝流（以下、東京剣舞会）による手裏剣&ちゃんばら体験が行われました。

東京剣舞会は殺陣（たて）や舞踊、居合や忍者演舞などが体験できる子ども教室や親子教室を開催。さらに地域のお祭りやイベントに参加するなど、子どもから大人までの幅広い世代を対象に日本の伝統文化に触れる機会を作ることを目的に活動しています。

食べて遊んで大満足の日

20名近い親子が家族ごとに分かれて鶏の照り焼き・スープ・サラダなどの食事を楽しみました。参加者に加えて、約10名のスタッフが調理や配膳などで動き回り、その間に参加者との会話を楽しむなど、会場には和気あいあいとした雰囲気の流れました。食事後はいよいよ「手裏剣&ちゃんばら体験」です。最初は講師の東京剣舞会の志伝飛龍（しでんひりゅう）先生による手裏剣体験。

子どもたちが自分たちで作った的に手裏剣を投げ、5回投げていくつ倒せるかというルールで進行了ました。普段はあまり触れることのない手裏剣に興味を示しながらもなかなか上手に投げる事ができず、3つ倒す子もいれば1つも倒せない子もいました。

手裏剣の次は扇子を使った演舞です。参加する子どもたちにひとつずつ扇子が配られ、扇子の持ち方や扱い方を習いました。扇子を初めて扱う子も多かったようで、手裏剣のときと打って変わり、静かに集中して扇子を扱っていました。

次はちゃんばら体験です。作り物の刀（竹光）を持って二人一組で練習。刀の持ち方や振り方を習い、その後は講師の掛け声のもと、上に下に刀を振り、

お互いの刀をぶつけあいます。何度かの練習ののちにみんなの前で一組ずつ実演しました。最後に行われたのが講師による模範演技。にぎやかだった会場も、この時ばかりは静かになり、大人も子どもも食い入るように講師の刀を振る姿に見入っていました。

団体交流会から始まったコラボレーション

協創のきっかけは足立区NPO活動支援センターが行った団体交流会。おうち食育協会の阿部あきなさんと東京剣舞会の小池有貴さんは同じテーブルでした。

活動を聞いていく中で阿部さんは「子どもたちが体験したら、絶対楽しい会になる」と思い、連絡先を交換。その後、興本地域学習センターで開催している殺陣教室を見学した上で、体験会の開催をお願いしました。阿部さんにとっても初めての試みでどのように声をかけたらいいか緊張したようですが、趣旨を説明したところ快く引き受けてもらえました。

東京剣舞会の小池さんはこのコラボ企画に際して、自分たちだけで行うわけではないため、時間配分は普段以上に気を付けていたと言います。また、普段は自分たちで用意する手裏剣の的を、今回は子どもたちの野菜の絵を使って作りました。「誰が作ったのが一番いいか、誰が一番多く倒せるかなど、みんなで楽しんでいただけました」と小池さんは話します。

コラボレーションを終えて

「体験に参加した子どもたち、それを見守っていた保護者の方々も、いい表情で楽しそうにしていたのが印象的でした。その様子を剣舞会のみなさんと共有できたことがとても嬉しかったです」と話す阿部さん。同じ区内で活動している団体との交流で生まれた新たな出会いが、活動をよい方向に導いてくれたと感じており、今後も剣舞会と継続的に交流をしていきたいとのこと。

また小池さんも「刀（竹光）や扇子を持ったことのない子どももたくさんおり、そんな子どもたちにも日本の文化である日本舞踊・剣舞などを楽しんでもらえたことが嬉しいです」と感想を話します。

注目の活動 センターピックアップマップ

アレルギーへの理解の輪を広げる

足立区アレルギーの会hooP（フープ）

足立区アレルギーの会hooPはアレルギーの普及啓発を行う団体です。その名前には人や地域とつながりアレルギーへの理解の輪が広がっていくようにとの願いが込められています。

現在は4名の会員で活動しており、お話会やミニ講座、マルシェの開催や子ども食堂のメニューの監修など、活動は多岐に渡ります。

代表の石垣亜希子さんは「アレルギーがあってもなくても、一緒に楽しみ乗り越えていける地域にしていきたい」と活動への想いを話します。



アレルギーの啓発を行う石垣さん

新規登録団体紹介

自分らしく羽ばたける オルタナティブスペース森のじかん

オルタナティブスペース森のじかんは、不登校や行き渋りなど学校が合わない子供たちが過ごす場所を作っている団体です。

代表の川田ともみさんが団体を作ったきっかけは、ご自身のお子さんが学校へ行けなくなってしまったことでした。子どもは学校でたくさんのお話を学びます。勉強はもちろん、マナーや人間関係など社会人になるために必要なことです。しかし、学校へ行けなくなると、それらを学ぶことができせん。家庭を中心に育つ子どもたちがそのようなことを学べる交流の場を探しましたが見つからず、自ら団体を立ち

上げました。

現在は月に2回活動しています。1回は農業体験と公園遊びなどの外の活動、もう1回は工作や料理などの創作活動です。8月からはドローンで風船を割るバトルゲーム「ドローンファイト」を取り入れ、外出が困難な子どもでも自宅から参加出来るように交流の場を広げていきます。

団体名の由来は、いずれは飲食店を併設したいと考え、その店の名前を「森のキッチン」としたいことから「森の」から始まるネーミングにしました。そして「すべては自分から始まる。自分から動き出せる人になってほしい」という想いから「じかん」という言葉を入れて「森のじかん」と名付けました。「初めて参加する子どもは緊張している場合が多いですが、次第に打ち解

聞きたい、あなただけのストーリー

け、笑顔を見せてくれることもあります。そういう笑顔を見ると嬉しくなる」と川田さんは言います。自分のペースで小さな成功体験を積み重ねて、「自分らしく」羽ばたける子どもたちのサポートをしていきたいと考え、今日も活動を続けています。



ドローンで遊ぶ子どもたち



みんなでご飯を食べて、手裏剣&ちゃんばら